

やめしやめふくしま 八女市八女福島

所在地/

指定/重要伝統的建造物群保存地区



八女福島の町並み



最も古い町家・今里家（1838）

福岡県の南部に位置する八女市の中心に八女福島という地域があり、江戸時代から昭和にかけての伝統的な町並みが残されています。

八女福島は、1600年に柳河城主となった田中吉政が福島城を大改造して城の周囲に城下町をつくった後、大きく栄えました。福島城はわずか20年後に無くなりましたが、町と町を結ぶ大きな道路沿いの町人が暮らしていた場所は、江戸時代から明治時代にかけてお茶・和紙・提灯・仏壇などの産業が発展し、八女地方の中心地として栄えました。

八女福島に暮らす商人や職人達は、商工業で蓄えた財を用いて立派な建物を築きました。八女福島では白い土壁に銀色の瓦を載せた家が特徴的です。八女福島では何度も大きな火災が起きたため、江戸時代の終わり頃から元々の草屋根を瓦屋根に変えました。また、壁や屋根の裏側といった木が表れた燃えやすい箇所を土や石灰と砂と糊等を混ぜたもので覆うことで、燃えにくい建築が建てられるようになりました。こうした造りの家を「居蔵」と呼び、福岡県をはじめとする北部九州では江戸時代後半から明治時代にかけて流行しました。

八女福島の町並みは、この町で暮らしてきた人々が建物を大切に使い続けてきたことで今に受け継がれています。現在でも100年以上経った建物を昔ながらの方法で修理をして、住宅やレストランなどに使っています。また、新しく建物を建てる際には町並みの雰囲気や壊さないようにルール（高さは2階建てまでなど）をつくるなど、住んでいる人々の努力によって美しい町並みが守り続けられています。

【もっとくわしく調べたい】

○八女市横町町家交流館 八女市本町94番地 Tel 0943-23-4311

【行ってみたい】

○西鉄久留米駅からバスで30分 → 福島バス停から徒歩で10分

○JR羽犬塚駅からバスで25分 → 福島バス停から徒歩で10分

○八女ICから車で10分